

B-18 歴史上に見るわが国の袴・ズボン類の構造の発達について

山脇学園短大 堀越 すみ

上古より現代に至る，男女の袴類・ぱっち・山袴類・ズボン類・洋服下ばき類などの構造を，実物・絵画・文献などによって明らかにし，いかに起り，いかに変遷発達したか，将来いかにあるべきかを考察した。

これらには，凡そ七種の構造を，かぞえることができる。その起原・発達は，固有的なもの，隋唐の模倣のもの，国風化したもの，公家の故実として固定したもの，近世初期の洋風を加えたもの，特に山袴類には個人色豊かなものがあり，明治以後の洋風の模倣によるものなど

がある。将来は模倣を脱し、生活に即したものを作っていくべきである。

資料の一部を紙面の許される範囲で次にあげる。埴輪土偶、正倉院の袴類四種、神社の御神衣の袴、大塔・毛利元就・信長・豊公・徳川将軍・公家と武家の袴・山袴・江戸から現代の裁縫書等。